

〈社会〉

## 地域に目を向け郷土を愛する児童の育成

—— 主体的・対話的なグループ学習を通して（第5学年） ——

恩納村立山田小学校教諭 仲 村 卓

### I テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説社会科編（平成29年6月、以下『社会科編』）第5学年目標の（3）には、「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。」と明記されている。

北俊夫（2008）は、著書の中で「これまでの小学校社会科の学習では、身近な地域→自分の住む市町村→都道府県→他の都道府県→日本→世界といった足下から広い視野へのアプローチであったが、第6学年に学習していた『世界』が第5学年の学習内容に位置づけられた。このことは、地域や国土の理解を逆の方向から、つまりは、世界→日本→都道府県→自分の住む市町村→身近な地域という方向で試みるということになるであろう。今後は足下と広い視野の双方向に立った授業計画や授業の展開が必要であると捉える。」と述べている。

本校は海に面した集落にあり、水産業の盛んな地域である。だが、普段、食卓で口にしている水産物がどのように捕られているのかよく知らない児童が多く、地域の水産業は、児童にとって遠い存在のようである。また、恩納村地域に関する児童アンケートの考察から、9割の児童が「海がきれいで自慢したい」と答えたが、水産資源が豊富で水産業のさかんな地域であることの認識は2割に満たない程度であった。児童は、これまでも地域に関する学習に取り組んできているものの、自分たちの住む地域への興味・関心が低いのではないかと推察される。また、これまでの自身の取り組みを振り返ると、学習課題を児童の身近な生活と関連付けたり自分事として捉えさせたりしながら、実生活に振り返らせる発問や単元計画の工夫が足りなかったことが課題として挙げられる。

この課題を解決するため、発問や単元計画を工夫し、まずは地域への興味・関心を持たせ、地域の人々が抱く地域への誇りや願いを児童一人ひとりが自分事として捉えることができるようにしたい。

そこで、本研究では、第5学年の小単元「水産業のさかんな地域」で設定する。学習内容は、日本の水産業の現状を理解し、これからの水産業について考える内容である。この小単元では、北が述べている「足下」を地域、「広い視野」を日本と捉え、教科書や資料集で日本の水産業について学び、水産業の知識を押えたうえで、恩納村地域の水産業を取り上げる。そうすることで児童は、より地域に対する興味・関心を持ち、主体的に「我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う」ための素地を育むことができると考える。そして、「知りたい」「解決したい」「なるほど、そうなのか」と課題を追究し解決する、主体的・対話的なグループ学習が行えるよう取り組む。そのためにも、地域に目を向けた発問と単元計画の工夫が必要不可欠であると考え進めていく。

### 〈研究仮説〉

日本の水産業に携わる人々が様々な努力や工夫をし、国民の食生活を支えていることを学び、地域水産業に目を向ける発問や単元計画を工夫し、興味・関心を持たせることにより、主体的・対話的なグループ学習の取り組みから、郷土を愛し、我が国の発展を願い、将来を担う国民としての自覚の素地を育むことができるであろう。

## Ⅱ 研究内容

### 1 郷土愛の育成とは

#### (1) 郷土愛とは

本研究での郷土愛とは、地域の人々が抱く地域への誇りや地域発展に向けた願いを共有し、実現のために社会に参加し関わろうとする態度であるとする。この郷土愛を育むために、社会的事象を比較・関連づけ、社会的事象同士の繋がりを考え、児童が学習したことを多面的に捉えられるようにする。また、自分たちの住む地域の良さを新たに発見し、地域のためにどのような協力ができるのかを考える時間を大切にしていきたい。

『社会科編』には、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること」と明記されている。

これは、グローバル化が進み、世界中の人々との交流や多様な考えに触れる機会が増える中で、児童に我が国に対する理解や愛情の基盤をどれだけ育成することができるかが重要である。しかし、第5学年の児童にとって我が国に対する理解や愛情についての認識は、あまりにも実生活からかけ離れており、自分事として捉えるには難しいのではないと思われる。

そこで、学習内容と児童との距離を近づけるための工夫として、まずは身近な地域の素材を教材として取り上げる。具体的には、恩納村地域は、サンゴ礁海域を主漁場として第一次産業の一翼を担っている。「海ぶどう」「モズク」をはじめとする養殖漁業や、栽培漁業、資源管理型漁業、観光漁業の継続・発展を目指すとともに、サンゴ再生活動に取り組み、平成30年度より「サンゴの村」宣言を行った。この地域の特徴を教材として活かすことにより、児童は自分たちの住む地域への興味・関心を高め、郷土愛の育成に繋げたい。

#### (2) 郷土愛の評価について

『社会科編』では、育成すべき資質・能力として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱を掲げている。この三つの柱の「学びに向かう力・人間性等」について田村学（2018）は、「学びに向かう力・人間性等は、よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだ異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい方向に知識・技能が活用できるようにすることと考えることができる。また、知識・技能を場面に応じて組み合わせたりして、自在に活用できるようになっていくことを思考力・判断力・表現力等が育成された状態と考えることができる」と書き表している。

これらを踏まえ、本研究を進めるにあたり、児童が身に付けた目には見えない「郷土愛」をどのように見取るかが重要となる。この児童の姿を見取る方法として、田村が述べている内容を参考にし、本研究の単元評価規準「主体的に学習に取り組む態度」を「郷土愛」と捉える。地域社会への思いや態度だけではなく、毎時間の学習で身に付けた「知識・技能」を活用して他者との関わりの中で「思考力・判断力・表現力等」を発揮し学んだことを記述した学習ノート振り返りや感想、新聞まとめなども含め「郷土愛」と評価する。

### 2 主体的・対話的なグループ学習について

#### (1) 主体的・対話的なグループ学習に向けて

中央教育審議会答申（平成28年12月）において「児童や学校の実態、指導の内容に応じ、『主体的な学び』『対話的な学び』『深い学び』の視点から授業改善を図ることが重要である。」と述べている。高木展郎（2018）も主体的な学びについて「自分以外の教室の中の他者に関わる中で、自分自身を相対化し、自分に気づくことが求められる」また、対話的な学びについては、「主体的な学びとして一人で学んだことを、教室の中の他者との対話によって、自己相対化を図り、自己認識することである。自分の考えを相対化せず、単に受容することは、対話的な学

びではない」と述べている。そこで、本研究では、児童が自己の学びを他者との対話によって相対化と自己認識する主体的・対話的なグループ学習に取り組む手立てとして思考ツール・Yチャート（以下「Yチャート」）と付箋紙を活用する。

次に、『社会科編』には、小学校における社会的事象の見方・考え方について「社会的事象を位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係に着目して（視点），社会的事象を捉え，比較・分類したり総合したり地域の人々や国民の生活と関連付けたりして（方法）」と示されている。このことから、本研究では、単元を通して社会的事象の見方・考え方を、「人・もの・こと」の三つの視点で捉えさせるようにする。本研究における、「人」の視点を、どのような考えをもって行動したらいいのか。「もの」の視点を、どのようなものをつくり出したらいいのか（目に見えるもの・見えないもの）。「こと」の視点を、たくさんの人とどのように関わり協力して活動したらいいのか。といった視点で学習課題に向き合わせる。この三つの視点を基に、Yチャートと付箋紙に個人の思考を整理させグループ内で伝え合うことにする。そうすることで、自分と他者との考えを相対化させ学習課題を多面的に捉えることにより自己認識を深められるようにする。

主体的・対話的なグループ学習について安永悟（2015）は、「ラウンドロビンの技法（図1）を取り入れることにより活発に行うことができる。」と述べている。

本研究においても、この技法を参考にして授業を組み立てていく。そうすることにより、児童一人ひとりがしっかりと学習課題に向き合い、学習内容が身近な自分事として捉えることができるように考える視点を明確にする。また、考える時間を十分に確保し個人の考えを確立させた上で他者との多様な考えに触れさせ、一人学びから更に広く深い学びへと発展させていく。

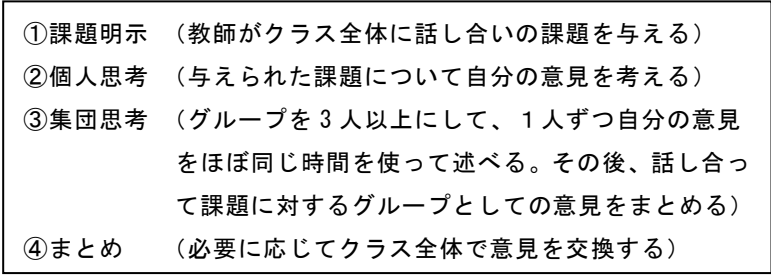


図1 ラウンドロビンの技法

(2) 思考をゆさぶる手法「アナザーストーリー」

新小学校学習指導要領（平成29年3月）では、社会科における指導計画の作成と内容の取扱いについて「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること」と明記されている。

粕谷昌良（2018）の「アナザーストーリー」の社会科の授業は、児童が社会事象を多角的に考えるための授業方法である。児童が追究する社会事象についての2つ以上の立場や人物、場面から分析し、よりよい解決の方法を考えていく授業方法である。単元の展開を『起承転結』とし、『起』では、問題把握。『承』『転』では、問題分析と意思決定。『結』では、提案・参画とし授業を構成する。しかし、これでは社会事象への理解が一面的な見方となってしまうといえない。そこで、『転』の場面において別の立場や視点から社会事象を見直すことにする。これを『アナザーストーリー』と呼ぶ。『なるほど、別の立場から見るとこうだったのか』とゆさぶられ、より深く多角的に社会認識が生まれる。多角的な視点で社会事象を理解し、認識を深めた子どもたちは、起承転結の『結』の部分で、より実際の解決を目指すことができる」と述べている（図2）。

そこで本研究では、思考をゆさぶる手法「アナ

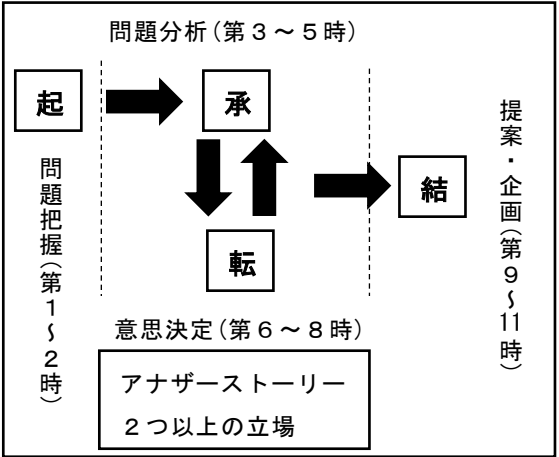


図2 アナザーストーリーの社会科の授業

ザーストーリー」を児童の発達段階を踏まえ、単元名「水産業の盛んな地域」に取り入れて研究を進めることとする。

恩納村地域の水産業は、養殖漁業や栽培漁業といった「育てる漁業」がさかんな地域である。この「育てる漁業」に目を向けさせ興味・関心を持たせる単元計画を作成する。まずは、「起」の場面で、日本の水産業における問題をしっかりと捉えさせる。そして、「承」の場面では、問題解決に向け分析し、「転」の場面で、「獲る漁業」とは別の漁法、「育てる漁業」があることに児童自らが気付き、恩納村地域水産業の取り組みについて学んでいけるようにする。最後の「結」の場面では、地域の人々が抱く地域への誇りや地域発展に向けた願いを共有し、実現のために社会に参加し関わろうとする態度を育むことができるようにする。

### (3) ゆさぶり発問とは

大西貞憲(2010)は、優れた発問とは「子どもが自ら考えたくなる、活動したくなるもので、その結果、授業のねらいや課題解決につながるもの」と述べている。また、北俊夫(1991)は、ゆさぶる発問について、「ゆさぶるとは、子どもの思考や意識の中に、不安定な状態を意図的・計画的につくり出すことである。同時に、不安定な状態を安定化しようとする意志、すなわち検証しようとする意欲が醸成される。」と述べている。そこで、本研究における「ゆさぶり発問」とは、自らの認識や解釈の一面的な理解から思考を活性化し、社会的事象を多面的に捉えるために方向付けをする手立てとして定義づける。このゆさぶり発問を意図的に仕掛けることにより、児童の思考をゆさぶり学習意欲を高め、深い学びへと繋げることができる考える。

北は、児童の思考力を効果的に育成するために三つの場面におけるゆさぶりの方法を記載している(表1)。この方法を参考にし、授業場面における意図的なゆさぶり発問を仕掛けることにする。それにより、児童間の解釈の違いを理

解することにも繋がり、主体的・対話的なグループ学習への発展を期待する。また、本単元全体を通して、「水産業に携わる人たちの願いとはなんだろう」という問いを意識させ、突き詰めると、水産業は、生活していく手段として重要であり、地域環境や地域とのつながりを大切にしていくな必要があることに気付かせたい。

表1 ゆさぶりの方法

|   |                         |
|---|-------------------------|
| ① | 学習をつかむ段階でのゆさぶりのかけ方      |
| ② | 学習問題について調べる段階でのゆさぶりのかけ方 |
| ③ | 調べたことをまとめる段階でのゆさぶりのかけ方  |

## Ⅲ 指導の実際

### 1 小単元名「水産業のさかんな地域」(『社会第5学年上』教育出版)

### 2 小単元の目標

- (1) 水産業がさかんな地域(恩納村)について調べ、その地域の自然条件や、水産業(養殖漁業・栽培漁業)に携わる人々の工夫や願いを捉える。
- (2) 水産物が加工や運輸などの仕事と密接に関わっていることや、費用との関係、水産資源や自然環境を守りながら漁業を進めていることに気付かせ、これからの水産業のあり方を考える。

### 3 評価規準

| 知識・技能                                                                                                                                            | 思考・判断・表現                                                                                                                    | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・恩納村や日本の水産業の現状と課題を理解し、水産業に携わる人々の工夫や努力がわかる。</li><li>・水産業に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて、収集・選択し、的確に読み取る。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・恩納村や我が国の水産業に携わる人々の願いや悩み、水産業と加工や運輸などの仕事とのかかわり、自然環境を守るための取り組みについて考え、適切に表現する。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・恩納村や我が国の水産業について関心を持ち意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業から見えてくる地域との繋がりについて考える。</li></ul> |

#### 4 小単元の指導計画（全 11 時間）

| アナザーストーリー                             | 時<br>間                        | ○本時のねらい<br>☆各場面における発問                                                                                                     | (・) 評価の視点 【評価の観点】 評価の方法<br>◆グループ学習                                                                                                                   |
|---------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                       | (問題把握)：日本の漁業生産量が減少した理由はなぜだろう。 |                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
| 起                                     | 1                             | ○日本は世界でも有数の漁業国であることを知り、自分たちが食べている水産物がどこで獲られているのか調べることができる。<br>☆普段食べている水産物はどこで獲れるのだろうか。(表 1-①)                             | ・日本近海の特徴について考え、意欲的に調べている。<br>【知・技】発言・ノート<br>◆水揚げマップから水産物が様々な地域で獲れていることを知り、その魚の種類や場所の特徴を考える。                                                          |
|                                       | 2                             | ○日本の漁業生産量が減っていることから、その原因が環境問題だけではないことを知り、その原因について考えることができる。<br>☆水産業に携わる人たちの願いはなんだろう。(表 1-②)                               | ・資料のグラフを読み取り課題を捉えている。<br>【知・技】ノート・発言<br>・水産資源の減少について理解している。【思・判・表】ノート<br>◆沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業のグラフから水産量が減っていることを読み取り、問題を捉える。                               |
| (問題分析)：水産業を取り巻く環境や課題について知り解決策を考えよう。   |                               |                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
| 承                                     | 3                             | ○日本の漁業生産量減少の原因として 200 海里水域による他国との関係性も関わっていることを知り、その解決方法について考えることができる。<br>☆解決にむけての課題はなんだろう。(表 1-②)                         | ・資料のグラフを読み取り課題を捉えている。<br>【知・技】ノート・発言<br>・水産資源の減少について理解している。【思・判・表】ノート<br>◆世界各国の年間漁業生産量や 200 海里水産図から課題を読み取り解決方法を考える。                                  |
|                                       | 4                             | ○水産物が届くまでに、たくさんの人が関わっていることを知り、水産業に携わる人たちの人数や年齢に注目し課題を見出すことができる。<br>☆人手不足はどう解決したらいいのだろうか。(表 1-②)                           | ・魚を新鮮なまま出荷するために、様々な仕事の工夫や努力があることを資料から読み取っている。【知・技】発言・ノート<br>・資料のグラフを読み取り課題を捉えている。<br>【思・判・表】ノート・発言<br>◆水産業に関わる人たちの年齢別グラフから課題を読み取り解決方法を考える。           |
|                                       | 5                             | ○産地と消費者を結ぶ流通・輸送の働きについて知り魚 1 匹に掛かる費用について捉えることができる。<br>☆外国の魚はなぜ安いのか。国産・外国産どちらを買いますか。(表 1-③)                                 | ・資料から輸送の交通手段・日数・移動距離等を読み取っている。<br>【知・技】発言・ノート<br>・国が変われば費用も違うことを理解している。<br>【思・判・表】ノート・発言<br>◆輸送に掛かる費用について考え外国産の水産物が多い現状から課題解決に向け考える。                 |
| (意思決定)：これからの水産業を支える為に必要なことはなんだろうか。    |                               |                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
| 転<br>本<br>時                           | 6                             | ○これまで調べたことから獲る漁業だけではなく育てる漁業が必要とされていることがわかる。<br>☆水産資源の減少、どう解決していけばいいのか。(表 1-②)                                             | ・水産業に携わる人々の悩みや願いを考え養殖業について理解している。<br>【知・技】発言・ノート<br>◆水産資源の減少を自分事として捉え解決策を考える。                                                                        |
|                                       | 7                             | ○恩納村の育てる漁業について調べることができる。<br>☆恩納村の水産業が取り組んでいる「育てる漁業」について調べよう。(表 1-①)                                                       | ・水産業に関する資料を目的に合わせて、収集・選択し、的確に読み取ることができる。<br>【知・技】ワークシート                                                                                              |
|                                       | 8                             | ○恩納村の養殖漁業や栽培について調べ、恩納村の水産業に携わる人々の願いを考えることができる。<br>☆恩納村の水産業に携わる人たちはどのような願いをもっているのかな。(表 1-③)                                | ・資料を活用して養殖漁業について調べることができる。<br>【知・技】ワークシート<br>・守り育てる漁業に関心をもち、「海ぶどう」養殖漁業や栽培漁業について理解しようとしている。【主】発言・付箋紙<br>◆これまでの学習した水産業に関する課題を思い出し恩納村の水産業に携わる人々の願いを考える。 |
| (提案・参画)：これからの地域の水産業を支え守る為に何が出来るのだろうか。 |                               |                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
| 結                                     | 9                             | ○恩納村の漁港を社会見学し、水産業における工夫や努力、携わる人たちの願いなどについてわかる。<br>☆養殖漁業の工夫や努力、願いは何だろう。(表 1-①)                                             | ・水産業について進んで調べようとしている。<br>【主】発言・ノート<br>・海の資源を育てるために、自然環境を守ろうとするための工夫や努力、願いについて理解している。<br>【思・判・表】ノート・発言                                                |
|                                       | 10                            | ○恩納村の水産業に携わる人たちの思いを知り、地域を大切に思う気持ちは水産業だけに限らないことを理解し地域への愛情を深めることができる。<br>☆恩納村の水産資源だけではなく海や山、恩納村地域を守るために協力できることはあるかな。(表 1-③) | ・水産業が抱える問題について理解している。<br>【知・技】発言・ノート<br>・自分事と捉え、恩納村や日本の水産資源の安定確保にはどんな課題や解決策があるかを適切に表現している。<br>【思・判・表】新聞づくり<br>◆これまでの学習を振り返り、自分たちがこれからとるべき行動について考える。  |

#### 5 本時の指導（8 / 11 時間）

##### (1) 本時のねらい

自然環境を生かした恩納村の「育てる漁業」について調べ、安定して提供できる養殖漁業や栽培漁業の工夫や努力に気付くことができる。

(2) 本時の展開

|            | 学習内容・学習活動 ☆発問                                                                                                                                            | ○教師の支援<br>◎評価【観点別】                                                                                                                                     | 対話を生み出すグループ学習に向けて                                                                 |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>5分   | 1 社会科用語フラッシュ型教材<br>・前時の復習と本時の意欲づけ。<br>2 前時の復習<br>・育てる漁業について確認する。                                                                                         | ○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。<br>○教科書や資料集を拡大提示し確認する。                                                                                                           |                                                                                   |
| 展開<br>前15分 | 3 恩納村地域で行われている「育てる漁業」について調べる<br>☆恩納村の育てる漁業について調べたことをグループでまとめよう。<br><b>恩納村の育てる漁業について調べどのような願いや努力があるのか考えよう。</b><br>・インターネットや資料から恩納村の水産業の特徴について調べたことを共有する。  | ○調べる内容をあらかじめ準備し視点を絞る。<br>◎資料を活用して養殖漁業について調べることができる。【知・技】ワークシート<br>   | ・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。                                                          |
| 展開<br>後20分 | 4 調べ学習を進めるあたり、疑問に思ったことや恩納村の水産業に携わる人に直接聞いてみたいことについて考え話し合う<br>・課題明示<br>☆恩納村の水産業に携わる人たちの願いとはなんだろう。<br>・個人思考→集団思考<br>・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。<br>・(個人→グループ→全体) | ○新たな視点を与える。<br>○付箋紙を活用し考えを共有する。<br>                                | ・水産業に携わる人の願いや悩み、努力について自分事として捉え考える。<br>・多様な考えを膨らませる(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める)。 |
| まとめ<br>5分  | 5 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる<br>・調べたことから抱いた疑問についてグループで話し合った内容について発表する。<br>6 次時の確認をする<br>・社会見学での学習する視点を確認し学習意欲を高める。                                           | ◎守り育てる漁業に関心を持ち、「海ぶどう」養殖漁業や栽培漁業について理解しようとしている。<br>【主】発言・付箋紙・ノート<br> | ・安心して表現する(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)。                                     |

6 仮説の検証

本研究仮説に基づき、地域水産業に目を向け、興味・関心を抱かせることにより、主体的・対話的なグループ学習の取り組みから、「郷土を愛し、我が国の発展を願い、将来を担う国民としての自覚の素地を育むことができるであろう」について、授業観察、ノートやワークシートの記述、まとめ新聞、検証授業前後のアンケート調査の分析を基に児童の変容がみられたか検証を行っていく。

# (1) 主体的・対話的なグループ学習について

## ① Yチャートと付箋紙を取り入れた話し合い活動の工夫

本研究では、単元を「起承転結」の四つの場面で構成する。「起」の場面では、日本の水産資源が減少している現状を把握。また、把握した事象について「承」にあたる第3時目から5時目にかけて、その問題を解決するための課題を捉えた。そして、その課題を解決する方法をグループ内で話し合いを行うのだが、その際に主体的・対話的なグループ学習が展開される工夫として、Yチャートと付箋紙を活用した。自分の考えを付箋紙に記述し、その付箋紙を基にグループ内で発表を行う。発表した内容を「人・もの・こと」の視点でYチャートに整理を行った。

取り組み当初は、自分の考えを表現することに苦手意識を持っていた児童らも、単元が進むにつれ、一人三枚ずつ配布していた付箋紙の数が足りなくなり、「先生、おかわり下さい」と付箋紙を催促する声が聞こえてくるようになった。児童の中には、身を乗り出して話し合いに熱中する姿も見られ、活発な話し合い活動が展開されていた。

検証授業前後のアンケートにおいて、「グループでの話し合い活動は好きですか」という設問に対し(表2)、検証前には、話し合い活動に対して「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」と答えた11人(46%)の児童のほとんどが、検証後のアンケートでは、「みんなの考えを聞いて意見をまとめられるから好き」、「みんなの考えを種類別に分けると簡単にまとめることができて楽しかった」、「自分と友達の考えの違いや同じところを比べられて好き」といった内容の記述がされていた。

児童らは、Yチャートと付箋紙を取り入れた話し合い活動を行ったことにより、自分の考えや学びを友達との対話によって相対化し整理したり新たな解決方法に気付いたりすることができたことは、主体的・対話的なグループ学習に取り組めたと考える。繰り返しこの活動に取り組んだことで、本研究のポイントとなる「転」の場面にあたる第6時のグループ学習では、「獲る漁業」とは別の漁法、「育てる漁業」があることに児童自ら気が付き、円滑に単元計画の「結」へと向うことができた。

## ② 個人思考と集団思考から深い学びへの工夫

学習課題を自分事として捉え、児童自らが解決に向け学習に取り組み、個人の深い学びへと繋げたいと考え45分の授業を組み立てた。それは、毎授業において考える視点を与え、個人思考と集団思考の時間を確保した。

検証授業前後のアンケートにおいて、「自分の考えと友達の考えを比べ更に考えていますか」という質問に対し(表3)、検証前には「どちらかと言えば考えていない」「考えていない」と答えた16人(64%)の主な理由として、「何を考えたらいいのかわからない」「自分の考え



写真1 付箋紙を活用した話し合い活動

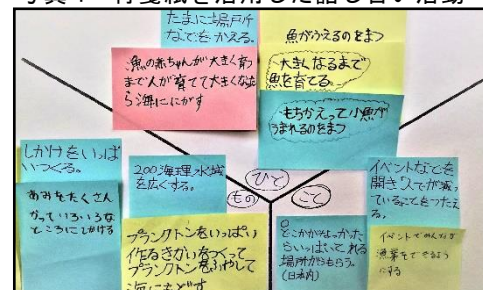


写真2 三つの視点で整理したYチャート

表2 グループでの話し合い活動は好きですか (N=25)

|     | 好き       | どちらかと言え<br>ば好き | どちらかと言え<br>ば嫌い | 嫌い      |
|-----|----------|----------------|----------------|---------|
| 検証前 | 9人(36%)  | 5人(20%)        | 5人(20%)        | 6人(24%) |
| 検証後 | 18人(72%) | 6人(24%)        | 0人(0%)         | 1人(4%)  |

表3 自分の考えと友達の考えを比べ更に考えていますか (N=25)

|     | 考えている    | どちらかと言え<br>ば考えている | どちらかと言え<br>ば考えていない | 考えていない  |
|-----|----------|-------------------|--------------------|---------|
| 検証前 | 7人(28%)  | 2人(8%)            | 13人(52%)           | 3人(12%) |
| 検証後 | 13人(52%) | 8人(32%)           | 2人(8%)             | 2人(8%)  |

があまりない」「間違いが怖い」といった内容であった。しかし、検証後の理由では、「みんなの考えも聞けてもっと考えることができた」「自信が持てた」「相談できて安心した」といった内容の理由から児童の変容を読み取ることができた。

検証前後とも「考えている」「どちらかと言えば考える」と答えた児童らの理由として「自分の考えを確かめたり、比べられるから好き」「自分の考えを伝えたり、聞けたりするから好き」だと答えている。

これらのことから児童は、学習で得た知識を個人思考と集団思考を繰り返したことにより、新しい考えが生まれることへの楽しさを感じると共に学習課題を自分事として捉え、個人の深い学びへと繋げることができたと考える。また、この取り組みにより、本研究における郷土愛へ向けて深く追求していく学習意欲も高めることができたと捉える。



写真3 集団思考から個人学びへの様子

## (2) 地域への興味・関心を高める発問と単元計画の工夫について

本研究テーマを達成できるように独自の単元計画を作成すると共に、毎時間の発問に力を注いだ。まず、児童が恩納村地域の水産業に目を向けるように、「起」「承」の場面では、日本が直面している漁獲量の減少について捉え、その解決策について考えさせた。水産物を獲らなければ、消費者と水産業者は、生活に困ってしまう現実を把握させた上で、「転」の場面にあたる第6時目では、「水産資源の減少をどう解決したらいいですか」という発問を投げかけた。

すると、各グループから、「このままだといけない」「獲り続けていいのか」「でも獲らないと生活が困る」といった声が聞こえてきた。児童は、自分の考えや相手の考えにも思考をゆさぶられ、まだ見えない答えを探し出そうと真剣に取り組んでいた。

あるグループから、「守ればいい」「育てよう」といった考えが出た瞬間、学級全体が「獲る漁業」から「育てる漁業」へと見方を変える「アナザーストーリー」へと進むきっかけを児童自らが作り出すこととなった。そのことにより児童らは、より一層「育てる漁業」とはどんな漁業なのかと、興味・関心を示した。そして、その漁法が身近な地域の水産業として取り組まれていることに気が付き、恩納村地域の水産業について積極的に調べていくこととなった。

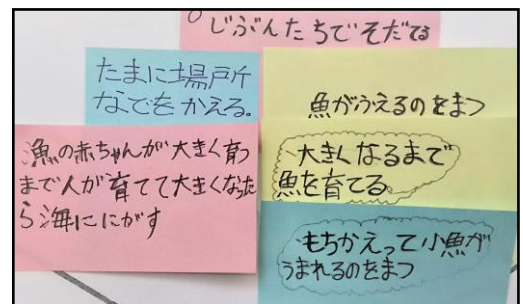


写真4 育てるを発表したグループのYチャート

第7・8時目では、調べ学習から新たな疑問を発見することができるように、「人・もの・こと」の視点で各グループ内において質問タイムを設定した。互いに調べたことを伝え合い、その内容について詳しく知りたいと思ったことを質問し合い、新たな疑問が見つかるように整理を行わせた。この取り組みを行ったことにより、第9・10時目の漁港見学では、教科書やインターネットには記載されていない、そこで働く人たちの願いや思い、努力や工夫、地域を大切に思う気持ちなどを伺うことができた。

第11時目では、前時のインタビュー内容や、これまで学習してきたことを振り返り、今後、地域のためにどのような協力や関わり方をしていきたいかを考え、本単元をまとめるよう取り組んだ。

検証授業前後の児童アンケートにおいて、「社会科は好きですか」という設問に対し、検証前に「好き」「どちらかと言えば好き」だと11人（44%）が回答し



写真5 養殖漁業見学

ていたが、検証後では21人（84％）へとになっていた。この児童アンケートの記述を見ると（表4）、検証前には、教科に対する漠然とした思いが理由として挙げられていたが、検証後には、本単元で学習した内容が理由として記述されていたということは、恩納村地域における水産業に注目する単元計画を作成したことにより、地域の特色に気づき、地域の人々が抱く地域への誇りや地域発展に向けた願いを学べたと捉える。これは、児童の地域に対する興味・関心を高めることができたからだと考える。

### (3) 郷土愛を育むについて

地域の人々が抱く地域への誇り

りや地域発展に向けた願いを共有し、実現のために社会に参加し関わろうとする態度である郷土愛の育成を図ることができたかを検証する。

#### ① 児童の行動から

第7・8時目では、恩納村の水産業について調べ学習を進めた。児童は、前時において水産資源の減少を解決する方法の一つに「育てる」方法があることを導き出している。このことにより、身近な地域で取り組まれている「育てる漁業」が、どのようなことを行っているのかと強い興味・関心を示していた。「育てる漁業」の中に、普段よく目にしている「海ぶどう」も含まれていることを知り、驚きの表情を浮かべていた。そこで、調べる焦点を恩納村の「海ぶどう」に当てることにした。児童は、意欲的に調べ学習に取り組み、水産業から見えてくる地域との繋がりの自分たちとの繋がりについて考えた。

第9・10時目では、実際に漁港へ見学に訪れ、水産業で働く地域の方へのインタビューや講話を聞くことができた。児童が水産業に携わる方へ「なぜ、海ぶどうを恩納村の養殖漁業に選んだのか」と質問したところ、水産業に携わる方からの回答は、「海ぶどうは、水深25mから30m付近の海底に生息しており、貴重な水産物である。そして、構造が複雑なので、誰もが簡単に養殖できるものではない。だからこそ、養殖に難しいと思われる海ぶどうに挑戦することにした。取り組み始めて30年間、様々な苦労や努力を乗り越えたことによって今日の恩納村の海ぶどうがある」という貴重な話を聞くことができた。

今回、児童が作成した個人新聞の感想（図3）には、水産業の仕事の内容に加え、地域水産業における悩みや努力といった、その地域で働く人たちの立場に立った内容の感想を本学級25人全員が記述していた。このことは、児童が地域水産業の良さを発見し学習課題を自分事として捉えたことにより、本研究テーマに迫ることができたと考ええる。

表4 「社会科は好きですか」の設問への回答記述（N=25）

| 肯定的な回答人数     | 肯定的な回答を示した児童記述                                                              |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 検証前<br>(11人) | 「新しいことがわかるから好き」（9人）<br>「社会見学に行けるから好き」（2人）                                   |
| 検証後<br>(21人) | 「地域の環境を守るために知識を増やしたい」（10人）<br>「もっと地域のことを知りたいから好き」（6人）<br>「話し合い活動が楽しいから」（5人） |



写真6 「育てる漁業」についての講話

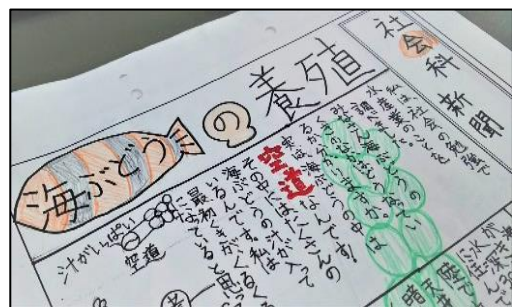


写真7 個人新聞まとめ

- ・海ぶどうは簡単にとれると思っていた。でも、育てるのは相当難しい海そうだったから育てている人たちの努力はすごいと思った。
- ・漁業の人たちは、いろんな悩みや工夫がありました。養殖漁業の事がよくわかりました。
- ・魚がいなくなりそうになっていることがわかった。なんで育てているかもわかった。

図3 個人新聞の感想

## ② 児童の記述から

検証前後のアンケートにおいて、「恩納村地域は好きですか」という質問に対し、検証前では22人(84%)が「好き」だと回答した。また、検証後では24人(96%)が「好き」だと回答している。

このアンケートの回答内容を分析(図4)すると、検証前の理由として、「海がきれいだから好き」といった直感的な理由の記述が68.3%であったが、検証後の回答では、「水産物が豊富だから」「自然を大切にしているから」「環境について考えているから」といった学習した内容を踏まえた論理的な理由が62.5%と直感的な理由を上回っていた。また、検証前に見られた無答が検証後に見られなくなったことから、本児童が恩納村地域の良さを具体的に捉えることができたと判断する。

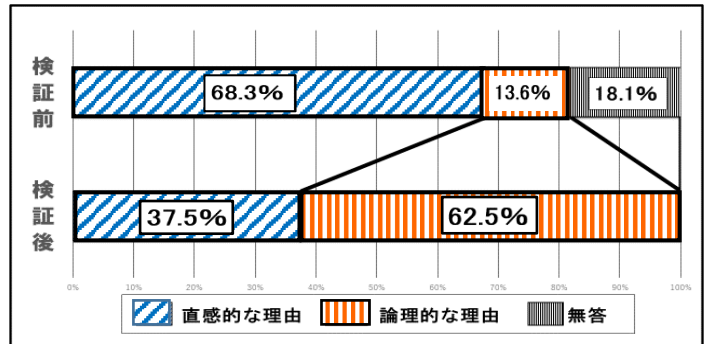


図4 「恩納村地域が好き」だと回答した理由を分析

そして、本単元最後の第11時における授業のふりかえり(図5)の記述の内容から、自分にも地域のために何か協力できることはないかと考えている内容が見られた。これは、学習課題を自分事として捉え、社会参画への意識が芽生えていると読み取ることができる。また、本単元の学習から更に発展した恩納村地域についての学習に取り組んでみたいといった主体的で意欲的な記述も見られた。

以上のことから、児童は、日本の水産業に携わる人々が様々な努力や工夫をし、国民の食生活を支えていることについて学び、恩納村地域へ目を向け、地域の人たちの思いや願いを考えたことにより、地域参画への素地を養うことができたと思え、本研究テーマにおける郷土を愛する児童を育成することができたと結論付ける。

- ・水産業で働く人たちは、魚や貝を獲るだけではなく、いろいろな努力や工夫をしていることがわかった。私も小さなことかもしれないけれどゴミなどを拾うようにしたい。
- ・水産業で働く人たちの願いは同じで、自然を大切に守っていききたいことも分かりました。今のように恩納村の海をきれいに保っていききたいです。次は、恩納村の観光業で働く人たちについて勉強をしてみたいです。
- ・地域の人たちの努力や協力がわかった。僕もこれからは海や山を大切にしていこうと思いました。今度は、恩納村の農業について調べてみたいです。

図5 第11時目に児童が記述したふりかえりの内容

## IV 成果と課題

### 1 成果

- (1) 学習内容と児童との距離を近づけるための発問や単元計画の工夫を行うことにより、学習課題を自分事として捉え、地域に対する興味・関心を高めることができた。また、地域のために協力したいという意識へと繋げることができた。
- (2) 繰り返しグループでの話し合い活動に取り組んだことにより、個人の深い学びへと繋がり、本研究テーマに迫る手立てとなった。
- (3) 主体的・対話的なグループ学習の取り組みを重ねたことにより、郷土を愛し我が国の発展を願い、将来を担う国民としての自覚の素地を育むことができた。

### 2 課題

- (1) 教師の意図や指示を伝わりやすくする教材提示の工夫が必要である。
- (2) 各教科との関連を踏まえた全体計画や単元計画を作成することで、学習内容を更に深めることができるのではないかと考える。

## 〈参考文献〉

- 独立行政法人教職員支援機構 2018 『主体的・対話的で深い学びを拓く』 学事出版
- 中西仁/小林隆 2018 『初等社会科教育』 ミネルヴァ書房
- 粕谷昌良 2018 「多角的に考えるアナザーストーリーの授業③」『教育研究』 2018年・5月号、78～81頁
- 北俊夫 2017 『「思考力・判断力・表現力」を鍛える新社会科の指導と評価』 明治図書
- 栗田正行 2017 『「発問」する技術』 東洋館出版
- 澤井陽介 2016 『子供の思考をアクティブにする社会科の授業展開』 東洋館出版
- 朝倉一民 2015 『主体的・対話的で深い学びを実現する！社会科授業づくり教科書5年』 明治図書
- 田村学 2015 『授業を磨く』 東洋館出版
- 北俊夫・片上宗二 2008 『新学習指導要領の展開 社会科編』 明治図書
- 関西大学初等部 2013 『思考ツール関大初等部式思考力育成法〈実践編〉』 さくら社
- 澤井陽介 2013 『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』 図書文化社
- 安野功 2011 『社会科全時間の授業プラン5年①』 日本基準
- 小原友行 2009 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン小学校編』 明治図書
- 北俊夫 1991 『ゆさぶりのある社会科授業を創る』 明治図書

## 〈参考URL〉

- 愛される学校づくり研究会（2018年7月最終アクセス）  
[https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=ai\\_school](https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=ai_school)
- アクティブ・ラーニングを支える協同学習/教育オピニオン（2018年7月最終アクセス）  
<https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/>
- 沖縄の主要水産物の紹介／沖縄県（2018年7月最終アクセス）  
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/suisan/suisan.html>
- 沖縄の農林水産業（2018年7月最終アクセス）  
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/norinkikaku/kenkyu/documents/6okinawanosuisanngyou.pdf>
- 恩納村コープサンゴの森連合会/恩納村漁協の取り組み（2018年7月最終アクセス）  
[www.sangonomori.jp/torikumi/index.html](http://www.sangonomori.jp/torikumi/index.html)
- 浜の活力再生プラン/水産庁（2018年7月最終アクセス）  
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/bousai/hamaplan.html>
- 文部科学省 新小学校学習指導要領（2018年8月最終アクセス）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)
- 文部科学省 新小学校学習指導要領解説 社会科編（2018年8月最終アクセス）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1387014.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm)
- 文部科学省 中央教育審議会答申（2018年7月最終アクセス）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/toushin.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/toushin.htm)

## 〈協力〉

- 恩納村漁業協同組合（講師 比嘉 義視）・NP0法人おきなわグリーンネットワーク・恩納村農林水産課  
恩納村観光協会（写真・イラスト提供）・恩納村商工観光課（イラスト提供）